



20 高建発 91 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 様

高山村長 久保田 勝士



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて、当村では別紙のとおりです。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

道路は、住民生活や経済・社会活動を支える最も基礎的な社会資本であります。

高齢化、少子化が進展している中、活力ある地域づくりを推進するため、道路整備は、より一層重要となっています。

特に近年においては、豪雨、豪雪及び地震等によって国民生活が脅かされる事態が発生しており、防災の観点からも強度の高い道路づくり、災害時に地域を孤立させない道路網の確保に対し住民から強い期待が寄せられています。

このような状況の中、道路財源特例法等道路関係法案が再議決により成立しましたが、一方で「道路特定財源等に関する基本方針」が閣議決定され、道路特定財源の一般財源化が明記される等道路整備に大きな不透明感が生じています。真に必要な道路が着実に整備され、適正な維持管理が図られるように下記のとおり要望します。

記

- 1 地方にとって使いかっの良地方道路整備臨時交付金制度の更なる拡充を図ること。
- 2 住民生活の安心・安全確保、地方の活性化・自立支援、個性ある地域づくり等の施策を推進するため、地方の視点に立って道路整備を着実に進めること。
- 3 今後、急速に進む道路ストックの高齢化に対し、効率的な点検補修を行い、道路網の安全性・耐久性が確保されるよう適切な道路維持管理を行う。

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県高山村

○現状と課題

道路は、日常生活に必要不可欠な生活関連施設であるとともに、経済活動を支える社会基盤です。

また、広域的な生活圏を形成し、各種振興策の実施を図るうえで重要な役割を担っています。

現在、本村の県道は主要地方道須坂中野線のほか6路線あり、地域経済や地域間交流の基軸として基幹道路網を構成しています。豊野南志賀公園線のように拡幅改良が進んでいる路線もありますが、まだまだ通行不能区間や狭隘箇所が多い路線もあり、今後も要請活動を実施するなど、改良整備のためのさらなる努力をしていく必要があります。

また、村道は公共施設へのアクセス道路や生活道路を中心に拡幅改良を進めており、さらに通学路を中心に歩道設置を行うなど整備を進めてきました。今後も、近隣市町村や国・県との連携を強化し、広域的な道路網の整備を進めるとともに、自然災害に強い生活基盤の整備を進めなければなりません。歩行者の安全確保や歩道・車道の除雪などに住民と行政が一体となって維持管理を進めていく必要があります。

県道においては、狹隘箇所の拡幅改良を進め、広域道路としての整備促進を図り、生活圏拡大にともなう安全な交通の確保を目指します。村道においては幹線道路整備計画の実現を目指すとともに、近隣市町村と連携をとりながら広域的な道路整備を目指していきます。さらに歩道の設置を促進し、歩行者の安全確保を目指すとともに、歩道・車道の除雪体制の一層の充実に努め、冬期間の交通確保を目指します。

- 1 主要地方道須坂中野線の開設及び一般県道大前須坂線の改良並びに群馬県側の開設を促進するとともに、強力的に国道昇格の運動を展開します。
- 2 一般県道宮村湯田中停車場線の開設を促進します。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表例、期待する効果や評価等)

様式④

長野県高山村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	主要地方道須坂中野線	主要地方道須坂中野線は、中野市と高山村を結ぶ歴史ある重要な路線であるが間山峠を越える部分が未整備で通行不能である。 地域住民にとって、この峠を結ぶことは長年の願望であり、昭和41年から本路線に関し調査研究が続けられてきたが、計画が難航し現在に至っている。 加えて、平成6年に「上越・中野・嬬恋・高崎間国道昇格並びに整備促進期成同盟会」が設立され、当路線も要望路線となっていることを契機に、主要地方道須坂中野線改良期成同盟会との連携を密にし、地域間交流・情報共有化・産業振興等に寄与するため、本路線の全線開通の早期実現に向けて関係機関等強力な運動を展開してる。	昭和41年から主要地方道須坂中野線改良期成同盟会が発足して毎年、地域住民が中心となって現地踏査、意見交換会及び関係機関へ提言活動を実施。
	一般県道宮村湯田中停車場線	一般県道宮村湯田中停車場線は、高山村から中野市、山ノ内町を結ぶ歴史ある道路であり、国道292号と主要地方道豊野南志賀公園線の両幹線道路を連絡する重要な幹線道路です。 また、沿線三市町村の交流促進はもとより、信州高山温泉郷と湯田中渋温泉郷を結ぶことによる周遊型観光の誘客も期待できます。さらに、迂回路として、山ノ内町から群馬県へ通じる路線の一部とし機能し、群馬県側との広域観光の取り組みが可能となります。このため産業振興の発展につながる重要な幹線道路です。 しかしながら、現状は高山村宮村地籍から山ノ内町菅地地籍までの間(小池峠)が交通不能となっており、その解消は地域住民をはじめ半世紀に渡り活動している当同盟会の悲願となっている。	昭和41年から一般県道宮村湯田中停車場線改良期成同盟会が発足して毎年、地域住民が中心となって現地踏査、意見交換会及び関係機関へ提言活動を実施。